

足立区環境基金審査会  
(平成29年度活動実績報告会)

議 事 録

平成30年4月27日(金)

足立区役所南館13階 大会議室A

【足立区環境基金審査会】会議概要

会 議 名	足立区環境基金審査会 平成 29 年度活動実績報告会		
事 務 局	環境部環境政策課		
開催年月日	平成 30 年 4 月 27 日 (金)		
開催時間	16 時 00 分から 17 時 00 分まで		
開催場所	足立区役所 13 階大会議室 A		
出席者	野尻 幸宏	倉阪 秀史	嶋田 知英
	高山 延之	飯倉 昭二	長谷川 貴子
	高梨 英樹	戸谷 恵美子	中川 美知子
欠席者			
事務局職員	環境部長、環境政策課長		
会議次第	別紙のとおり		
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料A-1 平成 29 年度足立区環境基金助成活動実績 (状況) 報告書</li> <li>・資料A-2 目的・概要・効果 (平成 29 年度申請時の内容)</li> <li>・資料A-3 交付決定の条件</li> <li>・資料B 平成 30 年度足立区環境基金助成金交付申請書</li> </ul>		
その他			

(事務局)

ただいまから足立区環境基金審査会を開催する。まずは環境部長から挨拶をさせていただきます。

(環境部長)

今回は区民から預かっている大切な環境基金を活用して区民の環境対策に取り組むを行う審査会であり、適切なお判断をいただければと思う。よろしく願います。

(事務局)

この後の進行は会長に願います。

(会長)

それでは、議事を進める。

本日の環境基金審査会は、委員定数9名、出席委員数9名であり、会議が成立していることを報告する。また、本日の議事録署名人は嶋田委員、中川委員を指名する。

それでは、配布資料の確認を事務局に願います。

(事務局)

事前に郵送した資料について説明する。

資料は大きく分けて2種類あり、「資料A—1, A—2, A—3」が平成29年度の実績報告に関するもの、「資料B」が平成30年度の申請書である。

また、本日席上には、次第、評価について(事務局案)、評価シートを配布した。不足等あれば事務局まで願いたい。

資料の確認は以上である。

(会長)

続いて、次第の5評価方法について説明を願います。

(事務局)

それでは評価方法について説明する。本日報告する団体は、昨年度に複数年度

にわたる活動を申請しており、交付決定の際に、平成30年度、31年度の助成は平成29年度の実績報告を踏まえて再度審査するという条件が付いている。そのため本日は、29年度の実績報告と30年度の申請内容について、プレゼンテーションと提案内容、質疑応答で評価していただく。

評価について(事務局案)をご覧いただきたい。まず、申請者がプレゼンテーションを約15分、委員との質疑応答を約10分間で行う。その後、委員同士での意見交換を行ったうえで、評価を記入していただく。29年度の活動を2項目、30年度以降の申請を3項目で評価し、5点から0点までの6段階で採点し、全ての委員の点数を合計して7割以上の得点となった場合は採択、7割未満の場合は不採択とする。

評価方法の案についての説明は以上である。

(会長)

事務局から評価方法の案について説明があった。委員から質問・意見等があれば願いたい。

(質問・意見なし)

では評価の方法は事務局案のとおりでよろしいか。

(異議なし)

それでは事務局の案のとおり、5項目を評価し、7割以上の得点で採択とする。

では次第の6プレゼンテーションに進む。報告者を入室させていただきたい。

(報告者入室)

まず、29年度の活動と、30年度の申請内容の説明を15分間で願います。終了2分前に事務局からお知らせし、15分後に終了の合図を行う。その後、委員から

の質疑応答を行う。それではプレゼンテーションをお願いする。

(報告者)

29 年度のアユの遡上調査は順調に行われた。申請では調査は6回の予定であったが、地元の方の情報提供もあり、7回実施した。親子調査のエコ夢探検隊は66名の参加希望者があったが雨天のため中止とした。

1回目の調査は6月3日に協働団体である、株式会社CANと共に実施し、54匹のアユが取れた。一昨年にとれたアユは5匹、その前の年は7匹で、順調に浄化が進んでいると思われる。また、埼玉新聞で「54匹、過去最大の成果」と報道された。

2回目の調査は6月10日に実施し、上流を中心に調査した。アユは発見できなかったものの、珍しいビワヒガイやボラが発見され、こちらも埼玉新聞で報道された。

3回目の調査は8月12日に実施した。卵を産みに上流に上ったアユを調査したが、取れたアユは1匹であった。

4回目の調査は10月28日に実施した。10月はアユが産卵する頃であり、状況を調べるために、上流の伊奈町のクリーンセンターで調査をした。三菱東京UFJ銀行からボランティアが6名参加し、スタッフと共に調査を行った。全部で350匹の魚を調査できたが、アユは見つからなかった。

5回目は悪天候であったが、10月29日に伊奈町で調査を実施し、成熟していて卵を持ったアユが取れた。持ち帰り調査をしたところ、成魚になる有効な卵であると判断された。また、埼玉新聞で「体長18cmの子持ちアユが伊奈の綾瀬川で

初確認された」と報道された。

4回目の伊奈町での調査では、伊奈町によるクリーン大作戦も行われており、副町長や、埼玉県生態系保護協会の支部長とお会いした。その際、産卵場所に関する情報があり、急きよ11月8日に6回目の調査を実施したが、卵の確認はできなかった。

11月18日はアユの生態調査に加え、親子調査のエコ夢探検隊を実施する予定だった。エコ夢探検隊は、桑袋ビオトープに参加者が集合し、Eボートに乗って対岸の大曾根ビオトープに渡り、魚や昆虫を調査し、再度ボートに乗って桑袋ビオトープに戻るイベントだったが、雨天により中止した。

生態調査は予定通りに大曾根ビオトープで行ったが、仔アユは確認できなかった。

来年度の活動では、アユの調査を継続し5回の調査をしたい。アユの遡上状況の調査に加え、後継者育成につなげたいと思い、株式会社CANに依頼し、学生のボランティアあるいはアルバイトの募集をしてもらうこととなった。綾瀬川の浄化を進め、住民にもお伝えし、環境意識の向上を図っていきたい。

また、今年度のエコ夢探検隊は2回実施する予定である。1回目のエコ夢探検隊では、子どもたちにアユ調査の現場を見せたいと思うので、バスで岩槻の綾瀬川の堰まで行き、調査の様子を見学させる予定である。その後バスで草加市に行き、草加で子どもたちとゴミ拾い活動をしているカヌー協会に協力を依頼し、カヌーでのゴミ拾い体験を予定している。綾瀬川には様々な景観があり、埼玉県の自然にあふれた綾瀬川の姿を是非子ども

たちに見せたい。

2回目のエコ夢探検隊では昨年の予定通り、E ボートを使用し桑袋ビオトープから大曽根ビオトープに渡り、昆虫・魚調査を行う。こちらもカヌー協会との共同実施を予定しており、草加市から子どもたちとカヌーで大曽根ビオトープまで来てもらい、草加の子どもたちと交流しながら調査を行う予定である。

29年度の活動報告と30年度の申請内容は以上である。

(会長)

それでは質疑応答に移る。

(委員)

昨年の審査では「子どもたちに」という視点を大切にすることに高く期待し、評価した。残念なことに親子調査は天候のため中止したというが、事前の悪天候の予想や、2回目の実施などを検討したのか。また、中止になったことで、費用面はどうなったのか。

(報告者)

どうしても天気によって左右される活動が多いため難しい。2回目を実施しても1回目の参加者が参加できないことがあるため、予備日は設けていない。

費用に関しては、前日までに駐車場とトラックを借り、ボートの運び込みまで行うため、全体の80%を支払う契約である。

(委員)

野外の活動には荒天の可能性もあるため、室内でできるイベントを事前に考えておくことが必要である。また、アユのモニタリングは重要であるが、調査場所は埼玉県が中心である。足立区に関連する水域で調査を実施できないのか。

(報告者)

アユなどは、桑袋ビオトープなどの足立区の綾瀬川を通っているが、そこで投網をかけてもかかる確率は低くなってしまふ。埼玉の岩槻に綾瀬川の最初の堰があるが、農業用水の貯水のために6月1日から堰が閉じられることで魚が集まるため、そこでの調査が最も効率が良く、結果も出やすい。以前に桑袋ビオトープで調査を行ったが、まったく取れなかった。

室内でのイベントは、桑袋ビオトープに借りることができる部屋があるので活用するつもりである。昨年度はすでに部屋を使う団体がいたため断念した。悪天候であればなるべく室内で、と考えていくつもりである。

(委員)

区民は足立区の綾瀬川というイメージが強い。調査は埼玉が中心とのことであるが、足立区内でもアユがいるのではないかと、力を入れて探すべきと思う。加えて、これは3年間のプロジェクトだが、足立区の子どもたちに向けて後継者の育成をしっかりと意識して取り組めば、3年で終了せずに足立区の事業となるかもしれない。そうした発展性も考えてほしい。

また、埼玉県の綾瀬川流域の方々がアユの分析などを行っているなら、ぜひ足立区も積極的に取り組み、地域新聞等で周知されることで、綾瀬川流域住民の一大プロジェクトとしてもっと良い活動になると思う。そうすることで、活動計画に書かれている、観光資源だったかつての綾瀬川に近づけるのではないかと。

(報告者)

去年は伊奈町と調査を行ったが、今年は草加市と調査を行う。草加市のグルー

プは中川、花畑川、綾瀬川を通過して草加に行くカヌールートを探している。こうした動きは足立区の観光ルートになる可能性がある。資料の「かつての綾瀬川」とは、歌川広重の作品にネムノキが茂った綾瀬川にいかだを浮かべている絵があることからだが、このように美しい綾瀬川を船で上れるようになれば観光資源になると思う。

調査に関しては、足立区の桑袋ビオトープの対岸の大曽根ビオトープで行っているため、ほぼ足立区を通過しているアユの調査である。大曽根ビオトープは綾瀬川の水が入り込み出ていく構造になっていることや、子どもたちが足を入れやすい地形であることから調査地点としている。

(委員)

最も汚れているといわれた川が綾瀬川の浄化が進みきれいになった現状を足立区の子どもたちに伝えるような、波及効果等の工夫をすれば、より足立区環境基金の事業らしくなるのではないかと。

(報告者)

昨年の11月18日の調査では、ジェイコム足立に魚の調査の様子を放映してもらったり、ケーブルテレビで調査を告知してもらったり、なるべく足立区の子どもたちに知ってもらえる工夫をしている。

(委員)

綾瀬川の河川の水質はワースト1という状況であった。アユが上がってきているなら、多少は浄化が進んでいるのだと思われるが、浄化がどの程度進んでいるのか、現状までにどのような経緯があったのか等を踏まえて考えていくべきだ。水質改善は重要であり、隣接する自治体も考慮しなければならないが、どのよう

に考えているのか。

(報告者)

エコロジー夢企画を設立する前は、任意団体として、1989年から綾瀬川の水質調査をしていた。当時の綾瀬川の汚れはBODの水質指標で、20以上の数値で汚れていた。現在、江戸川河川事務所が発表している数値によると3.8程度になっている。以前は桑袋ビオトープ内の浄化施設を使用し、綾瀬川以上に水質汚染されている伝右川の水を入れ、浄化し、綾瀬川に流していたが、3.8にまで浄化が進んだことで現在は稼働を停止している。さらに、上流の草加市にある浄化施設も停止しているため、再度汚染が進むことも懸念しているが、この調査を続けることで再稼働を要請できる可能性もあると考えている。

以上のように、浄化状況は数字では20から3.8とかなりの浄化が進んでいる。また、アユが卵を産むために海から足立区内の綾瀬川を通過し、上流の草加市まで上がっていることも浄化の進んだ結果と考える。

(会長)

6月はバスツアーで、伊奈町・草加市を回るという計画であったが、足立区内の綾瀬川を見学するスケジュールは考えているのか。

(報告者)

バスで移動する時に綾瀬川の顔を見せながら行きたいと思っている。また伊奈町で四手網の調査を見せた後、川口市の綾瀬の森を時間があれば見せ、草加市や越谷市の緑に囲まれた綾瀬川も子どもたちに見せたい。

実際の投網の調査では自転車や鍋が引っかかる程ごみが多い。また伊奈町では

クリーンアップ作戦が行われているが、河川岸のみを清掃しており、川の中はまだまだ汚れている。こうしたことも子どもたちに知ってもらい、必要なことを学んでもらいたい。

(会長)

イベントは2回ともバスやボートなどの、経費が掛かるものであるが、経費を抑えた区内の活動を加えることは可能か？

(報告者)

以前は桑袋ビオトープで昆虫調査をした後、徒歩で大曾根ビオトープまで行き、魚調査をするといった活動はしていたが、区内の全校にチラシを配る等の準備に手間と費用をかけてもなかなか人は集まらなかった。そこで今回Eボートを使ったイベントを企画したら、数多くの人が集まった。

(会長)

集まった人にむけて、現場に触れるイベントを用意することで、リピーターを作り、なるべく足立区内のビオトープなどを使った活動もできる、そういうイメージはできないか。

(報告者)

今回はバスで綾瀬川の様々な現場を見せたり、去年出来なかったEボートをしたいと考えている。昨年中止になり、落胆した人々に声掛けをしていきたい。

(会長)

去年の審査会でEボートの安全対策に関わる質問があった。どういう備えをしたのか。

(報告者)

スタッフの注意やライフジャケットの準備、監視員の配置を行った。保険も入っていた。

(会長)

Eボートから水に落ちるリスクはないのか。

(報告者)

ボートの上で立ち上がる等をしなければ危険ではない。

(会長)

水を観察するとそういうことが起こる可能性もある。

Eボートは交通手段なのか、水や水辺を観察するものなのか。

(報告者)

船に乗って綾瀬川を進む主旨は、いつも見下ろしている川を、船の目線で見ると新しい発見があるからである。また、災害時に避難手段としてEボートが使われるようになってきていることもある。Eボート体験をすることで、災害時に迅速に乗ることや誘導ができるため、ボートを使用する。一昨年に実際にEボート体験を実施したため、状況は理解できる。

(会長)

Eボートを使う意義は理解できたが、かなりの費用になる。もっと経済的に使えるボートはないのか。5mほどの大きさを10人~15人乗ることができ、水質調査でも多く使用される和船もあるが、そのようなものを借りることは考慮しないのか。

(報告者)

和船は安定度がないので、危険性が増すと思う。それは安く借りられるものなのか。

(会長)

5万~10万円程度で船頭が付くものを借りることができる。

(報告者)

Eボートも10万円程度で、インストラ

クターやライフジャケットも付いて借りることができる。

(会長)

Eボートのレンタル代が25万円だが、想定参加人数はどうなっているのか。

(報告者)

60人を想定している。10人乗りの2艘で何度も往復する予定である。

(会長)

借りるバスは1台か。

(報告者)

1台である。

(委員)

昨年の申請内容に、株式会社CANとの協働を計画していたが、それはどうなったのか。また、埼玉県での活動が中心ということであるが、埼玉県のサイサン基金等の他の環境基金を申請しないのか。

(報告者)

サイサン基金は埼玉県内での調査であることと、埼玉県内の住民でなければ申請できない。

株式会社CANとの協働に関しては、昨年は調査にも参加され、東京未来大学の学生を連れて来た。また足立経済新聞というインターネット配信をしていて、そこで報告を出した。

(委員)

イベントのPRをしてくれるのか。

(報告者)

PRに加え、結果報告等もしてくれる。株式会社CANは様々な大学とつながりがあるが、魚類調査に関心がある学生はあまりいないため、説明会等を開催し、PRしていきたい。

(委員)

安全面は大変重要であり、子供は突発的な行動が多いため、ライフジャケット

や指導員等のケアを丁寧に行ってほしい。

(報告者)

ライフジャケットや指導員に加え、Eボートは親子参加としているため、必ず子供のそばに保護者が付くという安全の配慮もしている。

(会長)

他にないようなので、ここでプレゼンテーションと質疑応答を終了する。

(報告者退室)

評価に関わる事項については非公開

(会長)

評価結果をまとめると、調査に関してはこれまでの投資もあるので自己資金で行う、来年度はイベントに関して条件を付けた上で支援する。イベントはバスとEボートの2回のイベントをどちらも認め、経費はイベントに限ったものに精査してもらおう。

(委員)

悪天候時の対応についても十分に考慮するべきである。

(会長)

バスツアーもボートツアーも、悪天候の際に何らかの代替となる企画を用意することを条件とする。このような形にまとめてもよろしいだろうか。事務局からお願いする。

(事務局)

付帯条件はこの場で調整することは難しいため、会長一任とし、後に出来上がった付帯条件と、30年度の申請についてどのような形でいくらの金額を補助するかをまとめ、委員全員に追ってお知らせする。



(会長)

それではこれで審査を終了とする。結果は事務局を通じて区長に報告することになっている。

次第の9、平成30年度環境基金助成事業について事務局にお願いします。

(事務局)

平成30年度の環境基金助成活動については、現在募集中である。提案内容については自由提案型と課題対応型があり、今年度の課題は「食品廃棄物の減量に効果のある取り組み」と「区民、事業者、団体が連携して行う環境貢献活動」の2点である。なお募集の締め切りは、5月21日である。

平成30年度の申請を審査する次回の環境基金審査会は6月22日金曜日の午後の予定となっている。詳細については5月下旬に事務局に案内を行う。事務局からは以上である。

(会長)

事務局から今年度の募集と次回の日程について連絡があった。質問等あればお願いします。

(質問なし)

それでは以上で審査会を終了する。

(会議録署名)

環境基金審査会（平成 29 年度報告会）会議録記録署名員  
（平成 30 年 4 月 27 日 開催）

会 長	野尻 幸宏
署名委員	嶋田 知英
署名委員	中川 美知子